



藤木小だより



学校教育目標 自ら学び 思いやりのある たくましい子どもの育成
〒808-0071 若松区今光一丁目18番1号 TEL 791-2731 FAX 791-2732 校長 和田宜之

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

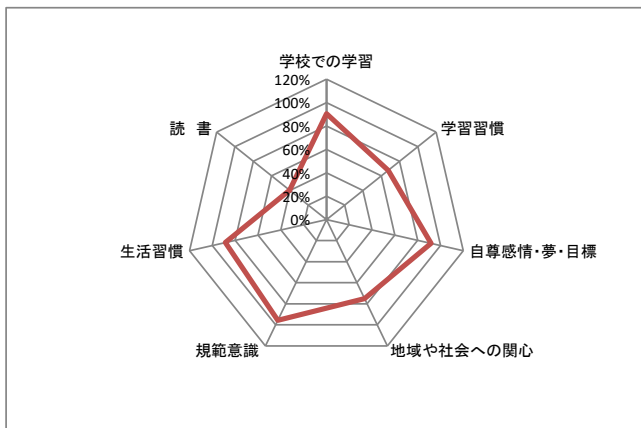
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・ 説明的な文章に関する問題の正答率が低い。 ・ 「漢字を文の中で正しく使う」、問題の無解答率が高い。 	下回っている
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図形に関する問題の正答率が比較的高かった。 ・ 示されたデータや求め方を基に、理由や考えを記述する問題の無答率が高い。 	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- すべての抜粋領域で全国の結果を下回っている。
 - ・ 家庭学習の時間が1時間以上の児童が3割強と、全国より大きく下回っている。
 - ・ 読書を1日当たり1時間以上している児童が1割も満たず、全国より大幅に下回っている。
 - ・ 携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について、利用時間が長く、家の人と約束したことを守っている児童が全国に比べ、少ない。
- コロナ禍で生活リズムが変化したことで、放課後の自由な時間が子どもたちに増えた。これにより、子どもたちは読書や家庭学習よりも、ユーチューブやオンラインゲーム等のSNSに時間費やすようになったのではないかと考えられる。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・ フラッシュカードやICT等を活用して反復練習を行い、漢字を含む既習言語の定着を図る。
- ・ 算数科に重点を置き、深い学びとなる授業づくりを日々実践し、研修・研鑽を重ね、教師の授業力向上を図る。
- ・ 各教科で児童のつまづきを分析的に捉え、基礎的・基本的な知識・技能の定着はもちろん、思考力・判断力・表現力等の育成に努める。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・ フィルターの取付や使用時間など、中学校と連携をして携帯・スマホ等の取扱いを児童に啓発する。また、「携帯・スマホ電源10時OFF」など、管理の仕方や約束の内容を家庭・地域に発信し、徹底を図る。
- ・ 家庭学習の定着を図るため、学習方法や自学ノートの参考例、計画の立て方等を児童はもちろん家庭に積極的に発信する。また、「家庭学習チャレンジ週間」を継続・活用し、家庭学習の習慣化を今後も図っていく。
- ・ 国語科学習や朝自習の時間等を活用し、読書習慣の定着を図る。また、ゆりかごの会と連携をして、読書の楽しさが味わえる機会を設ける。